放射光科学研究施設報告
Status Report of the Photon Factory

村上洋一・高エネルギー加速器研究機構/物質構造科学研究所/放射光科学研究施設

(1)PF の運営について

今年度は、PF プロジェクト経費の大幅減額、一般運営費交付金の不足、そして施設運転のための電気代の高騰という三重苦により、ユーザー実験時間の大幅な減少となり、ユーザーの皆様には大変なご不便をおかけしました。このような危機的事態に際し、PF-UA が中心となり、関連学協会や産業界からのビームタイム確保に関する要望書をお纏め頂き、文科大臣宛に提出して頂いたことを感謝致します。来年度の運転時間については、現在、KEK 内部で議論しているところです。PF シンポジウムの時には、その概要をご報告できると思います。

さて、この数年間取り組んできました、VSX 挿入光源ビームライン (BL-2, 13, 28) と短直線部ビームライン (BL-15) の整備もほぼ順調に進んできました。既に BL-15 は今年度後期より共同利用を開始しており、BL-2 も来年度の早い時期に共同利用に供する予定です。両ビームラインともに、まだ幾つかの問題は抱えていますが、早い時期にそれらを解消すべく努力していきます。

（２）PF の将来計画について

PF の運転開始からすでに 32 年間が経過し、同規模の放射光施設では世界最古の放射光施設となっています。PF が支えてきた放射光科学を今後どのように継続発展させていくのか、長期計画を考えながらも具体的な短期・中期将来計画を至急に明らかにしていく必要があります。PF 将来計画について、PF の内部ではもちろん、物構研の中でも２つのワーキンググループを立ち上げ、集中的に議論をしてきました。一方で昨年後半に PF 将来計画検討委員会が、物構研運営会議のもとに設立されました。本委員会では、PF は共同利用施設として今後どのような役割を果たしていくべきか、PF の次期光源はどのようなものであるべきか、さらには施設の運営形態のあるべき姿などについて検討を行っています。今年度末を目途に、中間報告がまとめられる予定です。PF シンポジウムでは将来計画に関して、PF ユーザーの皆様と十分に議論をさせて頂きたいと考えています。